次で安全教育を受ける大切さを解説!

・・・今日も快晴！・・・

トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第27話
安全教育は経験を短時間で補える有効な手段

ドライバー
綾瀬 小陽（24）

安全教育は経験を短時間で補える有効な手段

「事故はある」前提で始まる事故防止

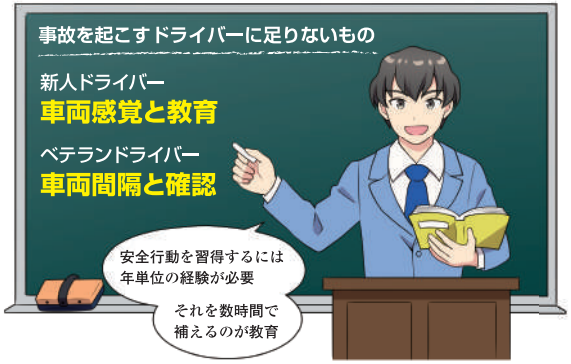
意図して起こしている交通事故はゼロのはずです。逆に言えば、事故ゼロは意図して取り組まなければ困難であり、「事故はある」との前提で安全になるための努力（確認）をすることが必要です。

「事故はない」前提
➡確認は面倒な行動
「事故はある」前提
➡確認は必要な行動
面倒な確認なしで、無事故なし!

マンガ制作：ad-manga.com

経験なし・教育なしに、「安全なし」

経験と教育によって、新人に多い「知らなくて」事故とベテランに多い「やらなくて」事故をなくしていきましょう。



「知らなくて」事故は重大事故になる傾向
「やらなくて」事故は特定のドライバーが繰り返す傾向

習得に年単位の経験が必要な安全行動を、数時間で補えるのが安全教育

安全教育は、短時間で誰でもいつでもほぼ同じ安全行動がとれるようになる、効果的かつ効率的な取り組みです。

教育は安全行動に必要なことを思い出させる機会

安全行動を経験から学ぼうとすると、数年かかるものです。また事故（失敗）の経験からならば瞬時に学べるかもしれませんが、リスクが大きすぎて当然お勧めできません。そこで有効なのが、事故事例などを通じて安全行動に向けた取り組みを数時間で補える安全教育です。

安全行動の基本は、国内で車が走り始めた当時から大きくは変わりません。ベテランドライバーにとっては、安全講習に参加して新たに覚えることは少ないと思います。しかし、安全行動を続けるために忘れてはならないことはたくさんあり、それを事故を起こしてからではなく、教育の機会で思い出せることが大きな効果といえるでしょう。

例えば、新人ドライバーは、運転に慣れていないことから車両の後方や左側への不安を感じる傾向にあります。一方でベテランドライバーは、悪い慣れにより、車両との間隔や確認が不足しがちです。安全教育を通じて、新人ドライバーに多い「知らなくて」起こす事故、そしてベテランドライバーに多い、確認などを「やらなくて」起こす事故をなくすことを目指しましょう。

安全に近づく簡単な方法はルールを守ること

前提として、人は間違うものであり、忘れるものです。間違うからルール（規則）が有効であり、忘れるから教育を繰り返す必要があります。ルールと教育は、「誰でも」「いつでも」「ほぼ同じ」ことができるようにするためにあるのです。

さて、安全のルールを守るのは面倒に感じるかもしれませんが、事故発生をイメージできればルールを守ることこそが安全に近づく簡単な方法だと気づきます。例えばバック走行をする際に「降車確認をするのとしないのと、どちらが簡単？」と聞いてみましょう。「降車確認」は、誰もが面倒に感じるものですが、「バック事故を絶対に起こさない」という前提に立つなら、むしろ当たり前と理解できます。車から降りないという横着を続けて生涯にわたり事故を起こさないのは、逆に難しいことだと思います。車から降りて確認するほうが簡単だと思えてきませんか。

事故の影響・防止方法を知るのも教育

出発前に「事故を起こしたくない」理由を、3つ考えてみましょう。例えば、ケガをしたくない、免許停止で収入を減らしたくない、将来の計画や夢を諦めたくないなど。続けて「事故を起こしたくない」行動として、例えば「面倒な確認」や「1秒・1回の確認」などをすると決めてから出発しましょう。事故を起こせばどうなるか、また事故防止のために何に取り組めばよいのか、それらを教育の機会で知ることができます。

高柳 勝二（たかやなぎ かつじ）
株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社　プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。